下田学生寮　理工学研究科修士2年　男子RA



RAに応募した動機は何ですか？

海外の友人を増やしたいと思ったためです。



留学生を招いたフェアウェルパーティーの企画・運営に力を入れました。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

自分と同じスポーツを趣味にもつ留学生と友達になり、海外での意見を聞くことができたり、今もSNSなどで交流を続けることができている点です。

留学生を招いたフェアウェルパーティーは、下田学生寮では開催の前例が少なく、大変でした。
しかし、パーティーで留学生やRA同士で親睦を深める様子を見て、頑張ってよかったと感じました。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

相手の気持ちになって考えることをより意識して行動できるようになったと思います。留学生の出身国によって考え方が違ったり、日本人が普段気にならない点でも留学生にとってはとても大変・心配に感じることを多く学び、それを踏まえてRAとして活動した経験は大変貴重なものになりました。

留学生とはSNSでつながっており、連絡が入るときに対応する形で両立しました。

授業、勉強、課外活動（部活・サークルなど）、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

多くの留学生と交流できるという普通に大学生活を送っているだけではできないとても良い経験ができると思います。少しでも興味がある方はぜひRAとして活動することをおすすめします！

大森学生寮　文学部１年　女子RA



RAに応募した動機は何ですか？

一人暮らしではなく寮から大学に通うことを選択した理由が留学生との交流を持ちたいということだったからです。



自分からしっかり留学生に話しかけることです。食堂で会ったり、廊下で一瞬すれ違ったりした時でも必ず挨拶をしてそこから必ず何かしら話を展開するようにしています。留学生の出身国や研究内容、趣味などを覚えて、前に話したことも覚えていることを示すことで信頼してもらえるように心がけています。また、私は国や所属する組織へのイメージはそこにいる人たちとの関わりで構築されていると考えているので、常に自分自身の留学生に対する接し方がそのまま日本や慶應の印象につながるということを意識して、日本、そして慶應を留学先に選択してよかったと思ってもらうためにはどうしたらいいかを考えて行動しています。加えて、何か困りごとがあると連絡をもらった時はなるべく早く返信をするようにすること、そして普段からの積極的なコミュニケーションの積み重ねによって頼ってもらえる存在になれるように努めています。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

一番は、やはり色々な国から来た留学生と仲良くなれることです。自分がまだ訪れたことがない国のことをたくさん知ることができて世界が広がったと感じています。日本にいながら留学をしているような感覚です。RAになる前も留学生との積極的な交流を心がけていましたが、やはり実際にRAとして留学生活の最初から留学生をサポートし、関わっていくのと、そうでないのとでは交流の密度が異なると感じています。
そして、毎日留学生の話を聞くことによって、自分自身も留学生の体験を追体験することができ、毎日の生活がより刺激的で、新しい発見で溢れるものになりました。また、言語学習へのモチベーションも高まりました。例えば私は第二外国語としてフランス語を学習していますが、授業で習った表現を寮に帰ってすぐにフランス人の留学生に使ってみたり、わからないことがあった時には教えてもらったりすることで授業にもより意欲的に取り組むようになりました。学習している言語を実際に使用している人が周りにいるのといないとでは学習意欲が格段に異なると実感しています。

業務面で大変なことはそこまでありませんでしたが、自分自身が持っている価値観を疑ったり、刷新したりする必要があったことです。価値観や考えの違いから摩擦が起きることも時にはあります。その度に、自分自身が今までの18年間の人生で築き上げてきた価値観や考え方を見つめ直し、相手と話し合っていくということが大変でした。しかし、同時にそれがこの活動で一番やり応えを感じたことの一つでもあります。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

相手の立場に立ってものを見る力です。もちろん留学生と毎日英語で会話をするので英語力の面でも成長がありますが、実際に留学生と関わる中で自分とは考えが違うなと思うことや、意見の衝突から、実際に数日間口を効かないような大喧嘩をしてしまったこともあります。しかし、そのような経験を通して、どちらの考えが正しい、間違っているではなく、ものの見方に違いがあるというだけであることを理解し、どのような時でも目にみえる行動だけで相手を判断するのではなく、その行動をとる背景には、どのような考えや文化があるのかというところまで思考を巡らせ、相手の立場に立ってものを考えることができるようになったと自負しています。
また、留学生の国民健康保険への加入や転入届の提出といった役所対応をすることで行政の仕組みなど、日本人ながらに今まであまり知らなかったことを知ることができました。留学生の困りごとも幅広く、日用品の購入から旅行の予約まで、様々です。そんな多様な困りごとを留学生の側で一緒に解決する中で自分自身も知らなかったような知識を得ることもできました。そして問題に一緒に向き合う中で、このようなところは海外の方にとってやりづらいのだなといったことやもっとこのようなシステムがあったら便利なのになといったように今まで考えたことがなかったところにまで視野を広げることもできました。

授業中に留学生から困りごとがあるので助けて欲しいと連絡がきたり、課外活動やバイトの関係で留学生が助けを必要としているときにすぐに対面で対応することが難しかったりすることはもちろんあります。しかし、自分が実際に留学生の用事に対面で付き合えなくても、テキスト上で日本語でメッセージを打って送ることで留学生がそれを役所やお店で見せるだけで用事が済むようにするなど、少しでも力になれるように工夫しています。もちろん、対面での支援も積極的に行い、予定が合うときは必ず実際に会ってサポートするようにしています。

授業、勉強、課外活動（部活・サークルなど）、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

RAは年齢、国籍関係なく多様な留学生と関わり自分の世界を広げられる最高の機会です。私はRAとしての活動を始めてから、実家に帰省した際に留学生との生活が恋しくなって逆ホームシックを引き起こしてしまうほどに寮生活がより充実したものになりました。非常に楽しくてやりがいのある活動なのでぜひチャレンジしてみてください。

大森学生寮　法学部4年　女子RA



RAに応募した動機は何ですか？

英語を使った国際交流にはもともと興味を持っていましたが、部活動もしていたので留学に行く機会はなかなかありませんでした。就職活動のため部活動を仮引退するにあたり、日本にいながら毎日国際交流ができるというRA活動に強く惹かれたのがきっかけです。



RAとして寮の規律を守らせる立場にありながら、留学生にとって親しみやすい一番の相談相手なることです。必要な注意等はしますが、留学生とよく遊びに出かけたり食堂で一緒にご飯を食べたりし、必要なときに頼れる存在であることを心がけました。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

世界各地にかけがえのない友人ができたことです。4年生になって時間ができたので、帰国した留学生の家に泊まらせてもらい、観光地を案内してもらうなどして安全で楽しい海外旅行を世界各地で楽しむことができました。

言葉がうまく通じないときは大変でしたが、留学生の言語能力が非常に高いので、理解した留学生が留学生どうしで伝えてくれることもあり、お互い助け合っていました。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

英会話力もそうですが、コミュニケーション能力が高まったと思います。多少英語がわからなくてもジェスチャーを用いながら楽しく会話できました。また、留学生にとって一番身近な日本語の先生になることが多かったので、日本語の話し方や言葉づかいにも気をつけるようになりました。

入寮/退寮の時期はRA活動が中心ですが、その他の時期は都度対応する感じだったので、自分の活動にも注力することができました。ただ、いつ問題が起きるかわからないので、メッセージにはすぐ気がつくように心がけていました。ほとんどの留学生とSNSで繋がっていました。

授業、勉強、課外活動（部活・サークルなど）、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

今のまま大学生活は満喫したいけど、国際交流もしてみたい！という方には本当におすすめです。世界各地にかけがえのない繋がりができ、自分の世界が広がるはずです。

元住吉宿舎　経済学部2年　男子RA



RAに応募した動機は何ですか？



留学生との交流を深めながら、英語力を実践的に活用できる環境に魅力を感じたからです。また、もともと不動産や管理業務に興味があり、快適な住居環境を整え、入居者が安心して過ごせるようサポートする仕事にも魅力を感じました。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

留学生との交流を促進するイベントの企画に特に力を入れました。言語や文化の壁を越えて、より快適なコミュニティを築くことを意識し、日常的な相談にも積極的に対応しました。

RAになってよかった点は何ですか？

異文化交流を通じて多くの新しい視点を得ることができた点が最も良かったです。また、英語を実践的に使う機会が増え、語学力の向上にもつながりました。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

テストや課題で忙しい時期に、RAの業務も入ってしまい、日程調整をしなければならないときがたまにあることです。

RA活動を通じて身についたことは？

コミュニケーション能力と英語力が大きく向上しました。特に、多様なバックグラウンドを持つ人々との対話を通じて、異文化理解が深まりました。また、住居環境の管理や問題解決に関わることで、責任感も培うことができました。

授業、勉強、課外活動（部活・サークルなど）、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

時間管理を徹底し、優先順位を意識することで両立を図りました。RA業務は突発的な対応が求められることもあるため、日頃から余裕を持ったスケジュールを組むよう心がけました。他のRAと協力しながら業務を分担することで、負担を軽減し、他の活動とのバランスを取るようにしました。

RAを目指している学生にメッセージを！

RA活動は大変なこともありますが、それ以上に貴重な経験と学びが得られる役割です。留学生との交流を通じて視野を広げたり、英語力を伸ばしたりできるだけでなく、住居環境を支える責任感も養われます。自分自身の成長につながる機会なので、ぜひ挑戦してみてください！

元住吉宿舎　理工学研究科修士2年　男子RA



RAに応募した動機は何ですか？

当初目標にしていた留学がコロナ禍で叶わず、日本にいながら国際感覚を身に着けたいと思ったからです。



コロナ禍により寮運営のノウハウが喪失した状態で着任しました。そのため、寮長や大学の担当者の方とできる限り密に協力しながら、二人三脚で寮運営の基礎を作りました。具体的には、留学生の入寮・退寮時の手順をGoogleフォームで電子化したり、寮の防災手引きを作ったりといった活動に注力しました。後輩のRAや留学生にもできるだけ楽しい生活を送ってほしかったため、ノウハウが確実に引き継がれる方法を作り、手続き面で苦労しなくて済む（かつ、内容は理解できる）仕組み作りを心掛けました。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

（前者と共通しますが）自分は国際社会の中で「訛りがあるひとり」ということに気付けた点です。国籍や人種、宗教など、私と周囲の留学生の間には無視できない違いがあります。しかしそれは単なる表面的・形式的な違いでしかなくて、たとえカタコトの英語であってもそのギャップを越えた意思疎通は可能だということに気付きました。自分と周囲の関係性を考えるときに「違い」が見えることはありますが、それが「訛り」であって根本的な相容れない「壁」ではないということは、これからを生きる上で大事にしたい価値観のひとつです。これを学べたRAとしての暮らしは自分にとってかけがえのない経験だったと思います。

辛い思い出はありませんが、各方面での「変化」への対応は苦労したかもしれません。コロナ禍からの回復に伴って留学生数が急増し、それまでの手取り足取りな留学生サポートが出来なくなったときは戸惑いました。結果的にGoogleフォームの導入でRA間の知識の差を埋め、RAの業務負担を平坦化することでこれは解決できました。また、役所のデジタル化が急速に進展した時期でもあったので、訪問する度に制度が変わっていててんてこ舞いになったこともありました。また、避けられない不測の事態として、急病人の発生、犯罪疑惑への対応、地震による停電の対応は大変でした。何事も1度目の経験であればどうしようもない（ので、RAなどで協力して頑張る）ですが、2度目以降は円滑に対応できるよう、報告書やマニュアルに対応事項を記載しておくのが大切だと気づきました。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

沢山ありますが、大きく分けて2つです。1つ目は、誰もが「訛りを持っている」ということに気付けたことです。入寮当初、自分の英語能力に引け目を感じていましたが、入寮1年目で留学生から言われた「君の英語は（私と同じく）訛っているだけ」という言葉に救われました。慶應の留学生寮は国籍が豊かで、それぞれが「訛り」のある英語を話し、それでいて意思疎通は問題なく出来ています。自分の英語が周りに溶け込めていると思えたことこそが、寮の多国籍な生活に溶け込める秘訣だったのかもしれません。2つ目は、報告・連絡・相談の能力です。コロナ禍の途中で入寮しましたが、着任1年目から約1年、管理人さんが定期的に変わる時期がありました。かなりイレギュラーなことでしたが、そのたびに管理人さんとの連絡体制を整える必要があり、情報の伝え方を工夫しました。紙に書く、直接管理室に出向くなどの方法面での工夫はもちろん、寮であったことを大学の担当の方に伝えておくことで、寮・RA・大学の三方ヨシな運営に少しは貢献できたかもしれません。

学業優先の考えのもと、サークルやアルバイト、長期インターンを掛け持ちしていましたが、両立に苦しんだことはあまりなかったと思います。しいて言えば、事前に大学や寮長、RAの仲間に都合がつきにくい日程を伝えておくことが両立するうえで大事だったと思います。

授業、勉強、課外活動（部活・サークルなど）、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

入寮時に私がお辞儀をしたら戸惑った留学生が、退寮時には自らお辞儀をしてくれたことがあり、とても嬉しかった覚えがあります。きっと人それぞれRAを通じて思うことは違うと思いますが、どれも貴重な学びだと思います。ぜひRAを目指してみてください！

日吉国際学生寮　文学部3年　女子RA



RAに応募した動機は何ですか？

入学前から、国際学生寮のRAというポジションの存在を知っていて「いつか自分も挑戦してみたい」と考えていました。1年生の4月から寮での生活を始め、半年間の中で多くの留学生と交流する機会に恵まれました。それ以降の寮生活をRAとして活動することで、より多くの留学生に顔と名前を覚えてもらい、さらに深い交流を築きたいと考え、応募しました。



RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

最も意識したのは、日常の中で多くの人と話すことです。キッチンや共有スペースでたまたま居合わせた留学生とも、積極的に話しかけるようにしていました。普段あまり顔を合わせない人とも、スモールトークから関係が生まれ、信頼関係ができていきました。そうした日常の会話を通じて、寮内で起きている小さな困りごとや、留学生の声に気づくことができ、RAとしての役割を果たす上でも非常に重要な活動だと感じています。お互いを知り、気持ちよく生活するには、「よき友人であること」がルール以上に大切だと感じています。

RAになってよかった点は何ですか？

RAという立場のおかげで、多くの留学生に顔と名前を覚えてもらいやすくなり、寮内で自然に会話が生まれやすくなりました。その結果、普段は話す機会の少ない学生とも関係を築くことができ、自分の世界が広がったと感じています。国籍や言語を越えてつながれる環境の中で、かけがえのない人間関係を築くことができたのは、大きな財産だと感じています。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

最も大変だったのは、入寮シーズンの対応です。特に夏休みに80人ほどの留学生が一斉に入寮する3日間は、とても密度の濃い時間でした。一人ひとりに丁寧な案内をしつつ、全体の流れを滞らせないよう工夫する必要があり、大きなチャレンジでしたが、RA一同で支え合いながら乗り越えることができました。

RA活動を通じて身についたことは？

イベントの企画運営や日常的なコミュニケーションを通じて、多様な価値観を持つ人々と協働する力が養われました。特に、相手の文化的背景や言語の違いに配慮しながら、誰もが安心して参加できるような場をつくるための工夫を重ねたことで、調整力や柔軟な対応力が身についたと感じています。

授業、勉強、課外活動（部活・サークルなど）、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RA活動は日常的なコミュニケーションを大切にする役割でもあるため、「活動時間を区切る」のではなく、生活の一部として自然に組み込むようにしていました。多忙な時期は、他のRAと連携して無理なく分担するなど、支え合う姿勢も大切にしていました。

RAを目指している学生にメッセージを！

RAは、自分から動けば動くほど、たくさんの出会いと学びが返ってくる、やりがいのある経験です。日本にいながらも国際学生寮という特別な環境で、言語や文化の違いを超えて人とつながる面白さを感じて暮らせる大学生でしかできない経験の一つだと思います。おすすめです。

元住吉国際学生寮　商学部4年　女子RA



RAに応募した動機は何ですか？

留学生と交流して、学習している英語をアウトプットする機会を増やしたかったため。また、イベントを企画、運営する経験をしたいと考えたため。



寮生の生活満足度の向上、国際交流を促進させることを目標に活動し、目安箱の設置やウェルカムパーティーの内容を工夫することに力を入れた。具体的には、代々木公園へのお花見という寮外でのイベントや寮内でケーキを作るといった、寮生同士の交流を深められる企画で、今まで元住吉国際学生寮ではやっていなかった企画を実施した。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

元住吉国際学生寮に住んでいる学生と幅広く交流して友達になり、コミュニケーションをとれたこと。また、イベントを企画して「楽しかった」という意見や留学生をサポートして「助かった」と言っていただけることにRA業務のやりがいを感じられること。

RAメンバーでの日常業務の分担やイベント運営においての役割の割り振りが大変だった。RAは定期的にメンバーが変わるため、RA活動に対するモチベーションなどの価値観やその人の忙しさが異なる。そのたびに、RA業務の進め方やイベントの企画、運営の進め方が変わるので、どのように進めたら業務が円滑にいくのか、RAという組織を形成することが難しかった。そのため、RAメンバーの特性（サークル、アルバイトの忙しさ）をはじめにヒアリングして理解した上で、どのようにRA業務の役割を遂行すべきかある程度のルールを作るべきだったと思った。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

一つのプロジェクトをRAで協力して遂行する段取り力、問題が起きた際に相手にどのように伝えたら解決するかという異文化背景を理解した上でのコミュニケーション能力が身についた。

RA活動においての繁忙期や日々の活動を考慮して、サークル活動に行ったり、アルバイトのシフトを提出して両立していた。予定を詰めすぎると体調を崩したり、成果に結びつかないという私の特性を理解した上で、優先順位を決めてスケジュール管理を行っていた。

授業、勉強、課外活動（部活・サークルなど）、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

RAは留学生と交流する機会が多く、異文化を理解する力やコミュニケーション能力が身につきます。大学時代に国際交流やイベントの企画、運営をしたいと考えている人、留学生をサポートしたい人はぜひRAに応募してください。

綱島SST国際学生寮　理工学研究科修士2年　男子RA



RAに応募した動機は何ですか？

在学中に実用的な英語を身に着けたいとなんとなく思っていたところ、RAの追加募集の案内が出ているのをたまたま見かけ、英語力に不安がありましたが、仕事内容に魅力を感じ勢いで応募したのがきっかけです。



留学生がスムーズに生活できるよう、必要な情報を確実に提供できる仕組みづくりに力を入れました。例えば、部屋の使い方、寮のルール、生活立ち上げ時・退寮時の様々な手続きの方法など、口頭での案内に加え、分かりやすく文書化することで、留学生がいつでも必要な情報にアクセスできる環境づくりを行いました。留学生にとって、言語が通じない中での役所や銀行などの複雑な手続きは、我々の想像以上にストレスがかかるようで、目に見えてイライラしている人も多かったです。手続きの方法やコツを事前に伝えておくことで、ストレスを軽減できたのではないかと思っています。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

留学生と仲良くなれる点は、やはりRAの大きな魅力の一つです。他の寮生と比べて、入寮直後から留学生と接する時間が長く、色々とサポートするので自然と仲良くなりやすい環境があります。留学生とは、国内旅行に一緒に出かけたり、帰国後に母国の実家に遊びに行ったりと、プライベートでも留学生との交流は充実したものとなりました。
また、仕事柄、留学生からよく感謝されることも、RAになってよかった点の一つです。特に、複雑なトラブルを解決した時は心から感謝されますが、その喜びは何ものにも代えがたいものです。

窃盗、急病、紛失、事故など様々なトラブル対応を経験しましたが、中でも大変だったのは、留学生のアパート賃貸契約におけるトラブルです。留学生は賃貸契約の仕組みをしっかりと知らないため、そこに付け込まれ、半ば無理矢理契約させられたというトラブルでした。一度契約を交わしてしまうと、法律上解除が難しく難航しましたが、トラブルの仲裁を行う機関に協力いただき、無事返金してもらうことができました。トラブル対応は大変であった一方、相手方に送る、契約解除を要求する文書の作成など、普通に生活しているとなかなかできないような経験を得られ、楽しくもありました。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

2つあり、1つ目は英語力が身についたことです。私は、2～3週間の短期留学と旅行でしか海外経験がなく、入寮時は英語力にかなり不安がありました。しかし、留学生との日常生活を通じて自然に英語力が向上したと感じています。日本国内で、ここまで日常的に英語を使って生活できる環境は中々無いのではないかと思います。2つ目は、人との接し方が身についたことです。実に多様なバックグラウンドを持つ何百人もの人々と接する中で、相手に合わせてどうすれば喜んでもらえるか、どう関わることが自分にとって幸せか、といったことを学びました。相手と自分双方が幸せになれる接し方を、少しずつ理解できるようになった気がします。

特に入寮の時期は、RA活動のためにあらかじめ日程をあけておく必要はありますが、それ以外の時期は忙しくても、LINEなどのSNSを活用して質問対応を受けたり、夜遅く帰宅後に時間を合わせてもらったりすることでその他の活動とRA活動を両立していました。

授業、勉強、課外活動（部活・サークルなど）、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

最初は1年だけと思って始めたRAでしたが、結果3年も続けるくらい、楽しくて有意義な経験となりました！どんな寮生がいるのか、英語力は十分かなど、応募にあたっては色々な不安があると思いますが、日本に来る留学生をサポートしたい、交流したいという強い気持ちがあれば、絶対に充実した寮生活になるはずです！是非挑戦してみてください！

綱島SST国際学生寮　メディアデザイン研究科修士2年　女子RA（留学生）

RA



RAに応募した動機は何ですか？

私自身が留学生として日本で生活しているため、新しく日本に来た留学生が感じる不安や困難を理解し、サポートしたいと思ったことがRAに応募したきっかけです。
RAになる前から約1年間この寮で生活しており、さまざまな国や地域の学生と出会い、友達をつくることができました。寮の雰囲気や生活環境も気に入っており、大学院在学中は引き続きこの寮で生活したいと考えていました。その中で、自分もRAとして寮の運営や新しい寮生のサポートに関わり、留学生と日本人学生が交流できる環境づくりに貢献したいと思い、応募しました。



RAとして約2年間活動する中で、特に力を入れたのは、寮生同士が交流できる機会をつくることです。留学生と日本人学生が自然に知り合い、友達をつくれるように、さまざまなイベントを企画・運営してきました。
例えば、ハロウィンやクリスマスなど季節に合わせたパーティーのほか、アフタヌーンティーやお菓子作り、ピクニックなども開催しました。また、パーティーのようなイベントだけでなく、一緒に勉強や作業ができる勉強会も実施し、さまざまな形で交流できる機会をつくりました。
イベントによって参加する寮生や雰囲気も異なるため、大きなイベントだけでなく、少人数でも気軽に参加できる活動を取り入れることも意識しました。実際に、普段あまり話したことのない寮生同士がイベントをきっかけに会話したり、交流したりする様子を見ることができました。

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

RAになってよかった点は何ですか？

RAになってよかった点は、寮生とコミュニケーションを取るきっかけが増えたことです。RAとして顔や名前を覚えてもらうことで、寮生から生活上の質問や相談をしてもらうことが多くなり、そこから自然に会話が生まれることもありました。そのため、一般の寮生として生活していたときよりも多くの人と知り合い、友達をつくることができたと感じています。
また、RAメンバー同士の関係がとても良かったことも、RAになってよかった点の一つです。RA会議は比較的カジュアルな雰囲気ですが、必要な情報や寮内の状況はしっかり共有できており、困ったことがあればお互いに相談しやすい環境でした。メンバーと楽しく協力しながら活動できたことも、RAとしての良い経験になりました。

RA活動の中で大変だったことは、さまざまな文化や生活習慣を持つ留学生をサポートすることです。日本では当たり前とされていることや、明確に説明されなくても守ることが期待されるルールも多く、それを日本での生活経験が少ない留学生に分かりやすく説明することが難しいと感じることがありました。

また、留学生特有の手続きや問題も多いため、日本人RAにとっては対応方法が分かりにくい場合もありました。そのため、留学生としての自分の経験を共有したり、RA同士で情報を確認したりしながら対応してきました。文化や考え方の違いを理解しながら、相手に合わせて伝え方を工夫することの大切さを学びました。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

RA活動を通じて身についたことは？

RA活動を通じて、イベントの企画・運営力や、状況に応じて柔軟に対応する力が身についたと感じています。イベントでは、参加人数やスケジュールが直前に変わることも多く、その場で計画を調整しながら対応する経験を重ねました。
また、大学、寮の管理者、寮生の間に立って情報を伝える機会が多く、それぞれの立場を考えながら分かりやすくコミュニケーションを取る力も身につきました。さらに、入寮時のオリエンテーションなどで多くの学生の前で説明する経験を通して、プレゼンテーションや人前で話すことにも以前より慣れることができました。

普段は授業や研究に加えて、サークル活動やアルバイトにも参加していましたが、RA活動と問題なく両立することができました。RA同士で予定を共有し、イベントや入寮対応などもメンバーで協力しながら進めていたため、自分のスケジュールに合わせて活動することができました。
一方で、修士論文の執筆や就職活動が重なった時期は、時間の調整が少し大変でした。その際は、優先順位を考えてスケジュールを管理したり、RAメンバーと役割を分担したりすることで両立していました。

授業、勉強、課外活動（部活・サークルなど）、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

RAを目指している学生にメッセージを！

RAは、寮生をサポートしながら、多くの人と出会い、さまざまな経験ができる活動です。RAになったことで友達も増え、私自身の寮生活もより楽しく、充実したものになりました。人と話すことや国際交流が好きな方には、ぜひ挑戦してみてほしいです！

高輪国際学生寮　文学部4年　女子RA



RAに応募した動機は何ですか？



留学生と関わりたかったから、貴重な経験ができると思ったから、友人ができるから、セキュリティがしっかりしているから、大学の近くに住みたかったから、家賃が安価だから

RAとしてどんな活動に力を入れましたか？

イベント企画に一番力をいれました。参加者数を増やしたり、交流を促進したりするため、イベントの内容を工夫しました。

RAになってよかった点は何ですか？

中国、韓国、カナダ、ベネズエラなど、色々な国の友達ができ、様々なところに遊びに行けたことです。また、同じ学部同じ専攻同じ学年の友達ができ、卒業単位の計算を一緒にできたのが、心強かったです。

RA活動の中で大変だったことは何ですか？

最初の半年は、慣れていないこともあって、入退寮時の手続きすべてが大変でしたが、1年後には慣れて楽しめるようになりました。留学生と関係を深めたのが大きいと思います。最後まで大変だったのは、イベント計画の際、寮の管理会社の方から、夜中に急に催促されたり、修正を求められたことでした。他のRA同士で分担を決めきれず、負担が私に偏った時期だったので、次からは平等に役割分担するようになり、少し軽減しました。

RA活動を通じて身についたことは？

寮生やRAだけでなく、管理人さんや寮の管理会社の方など、色々な立場の人とコミュニケーションを取る力が身に付きました。効率的な仕事の進め方も身に付いたと思います。

授業、勉強、課外活動（部活・サークルなど）、アルバイトとRA活動はどのように両立されましたか？

授業がたくさんあったときは、自分の時間とみんなで過ごす時間を区切り、夜10時からは自室に行くなどと決めていました。忙しすぎて留学生と過ごせないときは、夕食を食べながら交流し、隙間時間に気分転換する気持ちでイベントの企画書などの事務作業を進め、バランスを取っていました。また、退寮チェックで説明する内容を資料化して渡したり、イベント告知文のテンプレートを自作しておくことで、限られた時間を対人交流に使えるように工夫しました。

RAを目指している学生にメッセージを！

応募当初に思っていたよりも、RAの業務を通して貴重な経験をたくさん積めた2年間でした！低学年からずっとRAをやりたかったと思うくらい、間違いなく充実した生活が送れると思います！迷っている人がいたら、ぜひ応募してみてください！